

脳神経外科の外来には、頭痛を訴える患者さんが多く来院されます。その頭痛の多くは、肩こり、首のこり、ストレスなどが原因で起こる緊張性頭痛と呼ばれる頭痛です。

緊張性頭痛の症状としては、頭が締め付けられるような鈍い痛み（ヘルメットをかぶったような感じ）で、首の後ろからお



徳島大病院脳神経外科

溝渕 佳史 講師・外来医長

でこにかけての鈍い痛みが特徴的です。CTやMRIで頭の中を検査してみても異常はなく、頭痛薬や軽い運動をすることにより改善します。よく片頭痛(偏頭痛)と間違えられますが、片頭痛の場合は、痛みがズキズキと脈打つような痛みで、吐き気もあり、薬などを服薬しないと強い痛みのために仕事や家事ができなくなります。

脳神経外科で診察する頭痛で、もっとも危険な頭痛の一つにクモ膜下出血があります。クモ膜下出血が起こった場合は、頭の中の動脈が破れるために、徐々に痛くなるのではなく、突然、殴られたような激しい頭痛

が起こることが特徴的です。クモ膜下出血の場合は、症状が一時的によくなくても、再び動脈がさける可能性が高いため、すぐに脳神経外科を受診することをお勧めします。

危険な頭痛は早めの受診を

その他の放っておくと危険な頭痛には、脳腫瘍が原因で起こる頭痛があります。脳腫瘍が頭の中で大きくなることにより、頭の中の圧が上がり、頭痛が起こります。頭の中の圧が上がると、吐き吐いたりするものも脳腫瘍の頭痛の特徴と言われています。脳腫瘍の治療には早期発見が重要となります。

脳腫瘍の症状として決まったものはありませんが、長く続く頭痛、突然の嘔吐、手足が動きにくい、目の見え方がおかしい、認知症状が急に進むなどの様々な症状が脳腫瘍のできる場所によって現れ、徐々に進行していきます。

早期発見により、後遺症が軽くなる場合もあります。異常を感じた場合は、脳神経外科の外来を受診し、専門医の診断を受けることをお勧めします。